



第4回 国際コンファレンス 「地域金融の現状と今後」



主催：金融庁金融研究研修センター

慶應義塾大学経済学研究科・商学研究科連携 21 世紀 COE プログラム

1. 日時 平成 20 年 1 月 18 日（金）10:00～17:15

2. 場所 中央合同庁舎第 7 号館・講堂（3F）

3. 議題（テーマ）

我が国では、地域密着型金融（いわゆるリレーションシップバンキング、以下リレバン）の機能強化に向けて、各地域金融機関が、中小企業の再生や地域経済の活性化のための各種取組みを進めてきている。しかし、このような取組みの進捗にも関わらず、いまだ地域経済の活性化には至っていないとの声もある。

そこで、地域金融が地域経済の活性化につながっていると言われているドイツや、地域・中小企業への融資が活発なアジアと日本の現状を比較検討することで、今後の日本の地域金融の在り方を探る。

4. 議事次第

10:00～10:10 開会挨拶 佐藤金融庁長官

10:10～11:40 [セッション 1] 日本の地域金融の経験と現状

（各国の地域金融を比較するための軸として、まず今日までの日本の地域金融・中小企業金融の変遷、現状、地方の企業からみたりレバンの取組み及びその評価について報告が行われ、それに対してコメントがなされる。）

議長：金融庁・知原参事官

報告：・金融庁・渡邊協同組織金融室長

・中小企業金融公庫・塚原理事

・北日本海事株式会社・阿部代表取締役

11:50～12:30 [セッション 2] ドイツの地域金融の経験と現状

（ドイツでは地域金融が上手く地域経済の活性化につながっていると言われている。そのドイツの地域金融の現状・課題が報告される。そして、日本の地域金融の現状との比較を行い、ドイツでは地域金融がどのように地域経済の活性化につながっているのか、ドイツの各地域が独自性を持ち、地域金融を含む地域経済基盤を作ろうとしていることが地域の活性化につながっているのか、ドイツの地域金融制度が地域経済の活性化に好影響を与えているのか、ドイツの課題は日本の課題と違いがあるのかなどを考察し、ドイツの地域金融から日本への教訓を探る。）

議長：吉野 慶應大学教授 兼 金融研究研修センター長

報告：ドイツ（DSGV）・Thomas Keidel 氏

コメンター：山村 拓殖大学准教授 兼 金融研究研修センター特別研究員

12:30～14:00 昼食

14:00～15:15 [セッション3] アジアの地域金融の経験と現状

（アジアに目を向けると、タイ・韓国などでは、地域・中小企業への融資が活発化しており、大企業融資に偏っていた金融構造を地域・中小企業に向けようとしている動きがあり、経済成長が高い中で、地域金融も進展していると言われている。）

タイ・韓国の報告を受け、日本とアジアの地域金融の現状を比較し、アジアではなぜ地域金融が進展しているのか、成長のポテンシャルにより地域金融が上手く働いているように見えるのか、いわゆる目利きによるモニタリングが働き、地方企業も成長を始めているのか、地域政策と地域金融の一体化により地方経済が活性化しているのか、都市の中小企業と地方の中小企業ではアジア諸国でも大きな違いが見られるのかなどを考察し、アジアの地域金融から日本への教訓を探る。）

議長：・中小企業金融公庫・塚原理事

報告：・タイ（SME Thai Development Bank）・Pongsak Chewcharat 氏

・韓国（IBK 経済研究所）・Byung-Sun, Cho 氏

コメンター：・信金中央金庫総合研究所・藤野顧問

・横浜銀行・早川副頭取

15:15～15:30 コーヒーブレイク

15:30～17:10 [セッション4] パネルディスカッション 地域金融の今後の取組み

（地域金融の動向について、日本からリレバンの特色ある取組事例について報告される。その後、各国において地域金融は地域経済の活性化に対してどのような役割を担うのか、地域金融を担う地域金融機関はどのような役割を担い、どういった取組みを行っていくのか、同時に地域金融機関はどのような運営を行い、収益を上げていけばよいかなどについて議論し、地域金融の今後の在り方を探っていく。）

議長：金融庁・丸山審議官

リトペーパー：・金融庁・長谷川銀行第二課長

コメンター：・福岡銀行・吉戒常務

・ドイツ、タイ、韓国の報告者・コメンター

・吉野 慶應大学教授 兼 金融研究研修センター長

17:10～17:15 閉会挨拶 吉野 慶應大学教授 兼 金融庁金融研究研修センター長

（以 上）